

明治三陸津波の記録 5 ～風俗画報より～

1896（明治 29）年 6 月 15 日午後 7 時 32 分に起こった明治三陸地震は三陸沿岸に大きな被害を与えた。

当時この津波を報じたのが 1896（明治 29）年 7 月 25 日発行の『風俗画報』である。「大海嘯被害録」と題し絵図でその被害のすさまじさを人々に伝えている。

リアス・アーク美術館の収蔵コレクションからカラーで描かれた津波の絵図を紹介する。

※海嘯とは、河口に入る潮波の前面が垂直の高い壁状になり、碎けながら川上に進む現象。昭和初期までは、地震による津波も海嘯と呼ばれていた。



▲「海嘯の惨害家屋を破壊し人畜を流亡するの図」

1896（明治 29）年 7 月 25 日発行の扉絵。山本松谷 画

端午の節句を家族で祝っていた。波に飲まれる兜が空しさを感じさせる。

臨時増刊風俗画報第百十九号 大海嘯被害録（リアス・アーク美術館収蔵）